

Monstruo Rosa

タイトル：モンスター Monstruo Rosa
著者：オルガ・デ・ディオス Olga de Dios
出版社：アピラ Apila Ediciones
出版年：2013年
ページ数：35ページ
読者対象：幼児から
レポート作成：嶋田真美

概要

違いの大切さについての物語。人それぞれ違っていることで、私たちの社会が豊かになることを理解するための物語で、自由への叫びである。

あらすじ

モンスターは、生まれる前から他の子とは違っていた。もちろん生まれてからも。体の色、大きさ、笑うなどの行動。いじめられているわけではないが、みんなとは違うことを意識せずにいられない毎日を送り、いつか他の場所に行ってみたいと思っていた。そしてある日ついに実行に移した。自転車や船に乗って遠い所へ行った。するとそこには姿かたちの違ういろいろな人たちがいて自由に楽しく暮らしていた。他の誰かとは違うからこそその楽しさ、発見、豊かさを感じられる場所。モンスターはそこに自分の居場所を見だし、笑顔の絶えない毎日を送る。

所感・評価

ページ数の割に言葉数が少ないので、幼児から楽しめる。主人公のモンスターはモンスターとはいうものの、もも色でちょっと怖くない。それどころか手にも足にもマニキュアをぬり、まつ毛もくっきり、いつもニコニコしているおしゃれな女の子である。しかし、いくらみんなと仲良くしても、容姿もすることも違いすぎるため、違いを意識せずにいられない。ある日、モンスターは自分探し、居場所探しの旅に出る。そして旅の末、出会うのは自分とは全く違う姿かたちの生き物たち。だが、それぞれが自由に楽しく過ごしている。そこではじめてモンスターは「みんながって、みんないい」を実感し、そこを安住の地とすることを決める。

皆と違うという思い出すのは、アンデルセンの「みにくいあひるのこ」だ。主人公は周りからいじめられ疎外感を味わい、苦悩の末に自分と同じ姿かたちの仲間に出会いそこに落ち着く。しかし、それだと今度は自分たちと違う姿の者がやって来ても受け入れない可能性がある。つまり、自分探しの旅ではなく仲間探しの旅だったからだ。この絵本はそこが違う。ただ同じ仲間が集まるのではなく、自分とは違う他者を認め受け入れる。それが、お互いを理解し合い、高め合い、ひいては豊かな社会をつくることになる。そんな社会を目指していこうという著者の思いがひしひしと伝わってくる作品である。最後のページには、カバンを持ってやってくる（引っ越してくる）白い子たちを「いらっしゃい」と看板を持って出迎えるモンスターが描かれている。白い子たちがきらいで出ていったのではないことがはっきりわかり、小さな子どもたちもほっとして本を閉じられるだろう。

本書はアピラ社がまだ出版物を一度も出したことのない新人絵本作家を対象にしたコンクールの最優秀賞を受賞し、出版された。

本書の受賞歴

2013年アピラ最優秀印刷賞

2013年マドリッド自治州アウレリオ・ブランコ賞

2013年11月上海国際児童図書展、国際優秀絵本部門の金のかざぐるま賞

試訳（冒頭P2～P15）

うまれるまえから ちがっていました。

このこは ももいろ、ほかのこは しろ

モンスターは でっかい、ほかのこは ちっちゃい。

モンスターは いつも ニコニコ

ほかのこは くちばしがじゃまして ニッコリできません。

すんでいたのは なにもかも まっしろなところ。

そらはおおきなくもに すっぼり おおわれていました。

きも、いえも、じめんも みんな まっしろです。

かくれんぼすれば モンスターは いつも みつかるし

きのぼりすれば モンスターは おっこちます。

よるになると みんなは おうちでねむります。

おおきなモンスターは

おうちを だっこして ねむります。

どこか とおいところへいく ゆめをみて。

